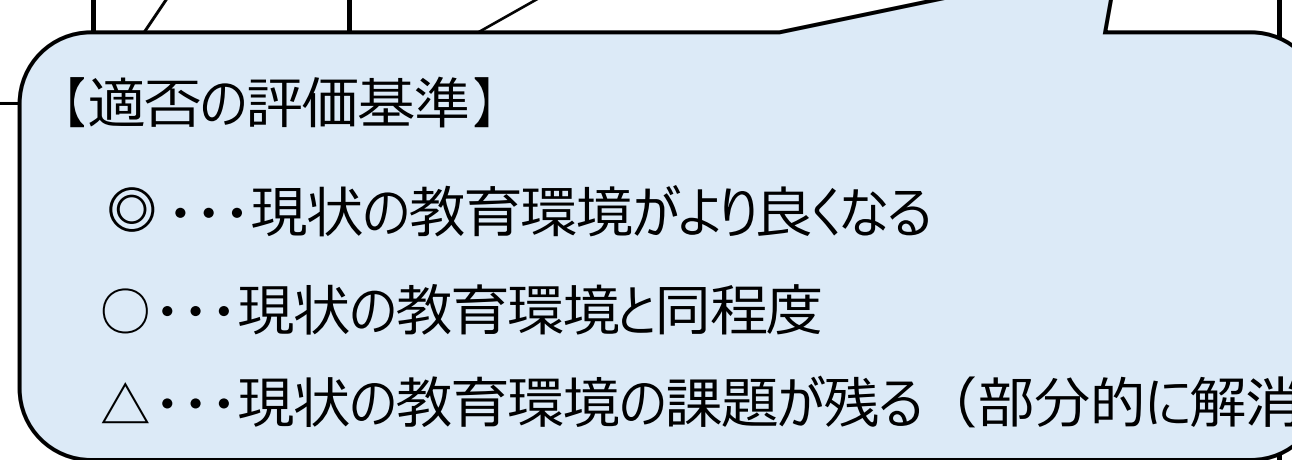


No.	区分	目指すこどもの姿 第1回会議	目指すこどもの姿を 実現するための教育環境 第1回会議	現状の教育環境の良さ （○メリット） 第2回会議	現状の教育環境の課題 （△デメリット） 第2回会議	良さを生かす方策、課題の解消策・緩和策 （○方策、□解消策・緩和策） 第2回会議	現状の教育環境の良さ（メリット）		現状の教育環境の課題（デメリット）	
							市の方針 適 否	適否の評価理由	市の方針 適 否	適否の評価理由
1	知	基礎学力を身につける - 主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけ、自分の夢や希望を実現できる - 学力の定着 - 文武両道	多様な学びの提供 - 一人一人、個に応じた教育を行い、確かな学力を身につけることができる教育 - いろんな機会に触れる、いろんな可能性に触れる機会が多ければ多いほどいい - 一人一人が主役になれる - プログラミング学習 - 地区外から子どもを呼び込める教育 - 自ら発表できる、表現できる環境 「田舎だから」、「人数が少ない」などという理由で諦めることなく、やりたいことに挑戦できる教育環境	○少人数のため一人ひとりに目がとどき、指導ができる。 ○一人ひとりの活躍の機会が多く、活躍することができる ○児童一人ひとりに対するきめ細かな教育活動（学習面、体育等の実技・機材が行き渡る） ○先生が寄り添ってくれている	△集団の活動ができない（合奏、団体競技） △体育、委員会活動、クラブ活動などでできることが限定的 △教育環境の整備（学校教育、スポーツなど） △少人数のため交流できる人数に制限があり、経験が不足しやすい △教員同士の連携が必要となる	○小規模特認校を活用しつつ、小規模校の良さを生かせる規模にする（1クラス 15名～20名程度） ○少人数であるため全教員からの視点で子供達を見れる ○全ての勉強・交友関係において読解力が必要、国語力の向上(相手を思いやる想像力)→読書週間を身に付けられるように読書タイム（1日10分～20分） ○小中学校を通じた指導による広範囲な視点を持た指導 □児童生徒数を増やす工夫 □外部講師等による指導環境の充実 □学区外のこどもたちの呼び寄せ	◎	◎1つの教員組織の下、義務教育9年間で小中の教職員が連携することにより、さらにきめ細かな教育指導が可能 ◎教科担任制や相互乗入れ指導などによる柔軟な教育活動	○	◎再編統合により学校規模が大きくなることで運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育の幅が広がる △1学年1学級であるため話し合い活動や学習の理解度に応じたグループ学習(習熟度別学習)など、多様な学習・指導形態を取りにくい
		得意を伸ばし自己肯定感を育む - 現在の子どもたちの特色を伸ばす - 好きなこと、得意なことをのびのびできるこども		○少人数のための様子を把握しやすい	△高度な分野は学校内だけでは限界がある	○少人数であることを生かした自然体験や地域学習	◎	◎少人数であることの良さを生かした一人ひとりに応じた就学・学習支援の充実	◎	◎地域資源・人材を生かした体験活動など地域と連携した教育活動の展開
3	徳	思いやりを持ち、同学年・異学年同士で成長し合う - 小学校、中学校の垣根を越えて、お互いにより影響を与えられるこどもたち思いやりのあるこども - 思いやりのあるこども	人間関係と多様性（他者への理解）を育む環境 - 異学年、同学年の交流を通して他者を理解し、協力することの大切さがわかる地域と連携した教育 - 異学年交流 - 他学校・地域との交流 - 幼稚園と小学校の交流 - 幼小接続 - 報徳仕法を学ぶ - 異年齢での活動（ふるさとクラブと吹奏楽部）	○子ども同士、子どもと先生の関係がしっかり築けている ○他校にない環境 ○上級生が引っ張るという感覚ができる	△複式学級などによる先生の負担増が、子どもたちに影響をあたえる懸念 △現在と同じ教育活動が難しくなる	□子供の不足の根本的課題解消のため、幼保小連携を実現 □異学年交流イベント等 □上級生が下級生の指導を行うことが一般化	◎	◎異学年交流の幅が広がる	◎	◎複式学級規模の解消 ◎全学年単式学級ではあるが、9学年となり学校全体の規模が大きくなる
		協調性・多様性（他者への理解）を育む - 他者を理解し、協力して取り組むことができる - 協調性 - 自己発揮をしながら周りの友達と協力して物事に取り組むこども - 他の学校の子との触れ合いを通した多様性を理解		○他の学年との交流ができ、お互いを知ることができる ○距離的にも近く関わり合いの機会も多いため、繋がりが生まれやすい	△人数が少ないので多様な意見が集まるのが疑問 △多様な意見や考えに触れることができない △考えを出し合い、深めることができない △集団人間関係が固定化しやすい △逆に閉鎖的になって固定した人間関係になる懸念	○他学年との交流 □グループ活動の充実 □学校・地域をととした活力を充実させる	◎	◎施設一体型のため小学生と中学生が自然に触れ合う機会増 ◎小規模特認校制度を利用する他地区のこどもと接する機会増	○	△1学年1学級のため、9年間クラス替えがないことで人間関係の固定化の懸念 ◎地域の大人と関わる機会増、小規模特認校制度を利用する他地区のこどもと接することで軽減
5	徳	地域を愛し誇りを持つ - 地域（原町、大甕、太田）を愛し、地域のために活動することができる - 大甕・太田地区の良さを理解している - 地域の愛着を持つ子	地域資源を生かす - 地域の生かした活用し、地域の良さがわかる地域と連携した教育 - 田植えや野馬追などいろんな機会を体験できる - 法螺貝などの伝統を継承 - 地域住民との接点を持続けてほしい - 地域住民の触れ合い交流（馬、田植え、etc.） - 地域資源を活用した教育（田植え、相馬野馬追等） - 農業（稲作）や工業（ロボテス）を活用したキャリア教育	○地域資源が豊富 ○地域を生かし地域と交流した教育ができる ○地元愛を忘れないこども ○農業体験 ○野馬追	△発信力が弱い（実際に見る、触れる体験それを外部に発信する） △田舎に対するトラウマ等 △他地域について知る機会	○地域住民との交流 ○地元企業や特色ある産業との連携 ○地域との協力 ○地域の人・企業との交流の機会 ○地域との積極的な交流 □他地域の同年代の児童との交流	◎	◎地域などについてふるさと学習をとoshi義務教育9年間で学ぶことが可能 ◎地域資源・人材を生かした体験活動など地域と連携した教育活動の展開	◎	◎地域資源・人材を生かした体験活動など地域と連携した教育活動の展開 ◎学校・保護者・地域住民と協働した学校運営による「地域とともにある学校」づくり
6	体	基礎体力を身につける - 基礎体力の充実 - 学力も大事ではあるが、基礎体力がつくような教育を行ってほしい - 文武両道			△運動する機会が少ない △教育環境の整備（学校教育、スポーツなど）	□疲れない体と作ることで授業の集中力に繋がる、肥満予防 □学区外のこどもたちの呼び寄せ □魅力あるクラブ活動の提供 □外部講師等による指導環境の充実			○	◎体育の授業や運動会などの学校行事の幅が広がることで運動機会増 △クラブ活動、部活動の選択肢に制約あり
7	知・徳・体	挨拶や生活習慣など基本を大切にする あたり前をしつかりできる子ども（保護者も一緒に学んでいる環境）	安心して通える環境 - オンライン授業などの選択肢、通いやすい学校づくり - 未就学児の保護者の方の不安、問題を取り除いていくのが重要					【適否の評価基準】 ◎・・・現状の教育環境がより良くなる ○・・・現状の教育環境と同程度 △・・・現状の教育環境の課題が残る（部分的に解消）		